

# 生活科学学習指導案

1年

I 単元 たのしくあそぼうーみんなであそぼう どんころんどー

## II 考察

### 1 教材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

#### ③学びに向かう力・人間性等

泥を利用して友達と楽しく遊びたいという思いや願いの実現に向けて、泥の遊びを創り出して、友達と楽しく遊ぼうとする態度

#### ①知識・技能の基礎

泥遊びの面白さや泥の不思議さへの気付き  
遊び方を考えて友達と楽しく遊ぶことができた自分自身への気付き

#### ②思考力・判断力・表現力等の基礎

身近な自然としての泥や友達と、自分自身との関わりを捉える力  
泥の遊び方の工夫を見いだす力

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

- (5) 「季節の変化と生活」
- (6) 「自然や物を使った遊び」

(3) 単元の価値

大単元「たのしくあそぼう」は、季節に応じた遊びや、身近な自然や物を利用した遊びを考え、友達と楽しく遊ぶ学習である。本小単元「みんなであそぼう どんころんど」は、身近な自然を利用した泥遊びにおいて、泥の遊び方を試行錯誤しながら工夫をして友達と楽しく遊ぶ学習である。その価値は以下のとおりである。

泥は、水遊びをしたり雨が降ったりした際に、校庭や公園で見たり触れたりする機会が多く、子どもたちが身近に感じることができる自然の事物である。水の量による粘性の変化に伴って、手や足で触れた際の感触や音、見た目が変わったり、思いに合わせて形を変えることができたりと、諸感覚を働かせて泥の不思議さへの気付きを得ることができる。さらに、気温が高くなるこの時期は、泥の冷たさが心地よく感じ、季節の変化を肌で感じることができる。これらのことから泥は、子どもたちの興味をひくことができ、もっと触れて楽しく遊びたいという思いや願いをもつことに適している。

泥遊びは、盛る・掘る・固めるといった関わり方が多様であり、様々な組合せを試行錯誤しながら工夫をすることができる。さらに、活動範囲が限られる田んぼで泥遊びをすることにより、子ども同士の距離が近付き、それぞれの泥遊びを比べて組み合わせることができる。そのため、遊びを創り出す泥遊びの面白さへの気付きを得ることができる。また、遊び方が似ている友達と

泥遊びをすることから、子どもたちは、共通の目的で一緒に活動をする機会が生まれ、友達と関わる楽しさへの気付きを得ることができる。そして、個々の小規模な泥遊びから集団の大規模な泥遊びへと、段階的に友達との関わりを広げる中で、子どもたちは、社会性を身に付ける。そのため、子どもたちは、友達と楽しく遊ぶことができた自分自身への気付きを得ることができる。

このような身近な泥を利用して友達と楽しく遊ぶことができることや、自分自身の泥の遊び方を試行錯誤しながら工夫をできたこと、友達との関わりによって思いや願いを実現できたことを基にした、気付きの質の高まりは、達成感、自己有能感、一体感を得ることにつながる。そして、今後の生活の中でも、泥だけでなく身近な自然の事物を利用して自ら遊びを創り出し、楽しみながら生活を豊かにしていくことにつながる。

#### (4) 今後の学習

ここでの学習は、1年「あきランドをつくろう」で、落ち葉や木の実等の身近な自然の事物を生かして友達と遊ぶ物を作り、それを使った遊び方を試行錯誤しながら工夫をして友達と楽しく遊ぶ学習へと発展していく。

#### 2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、1年「がっこうたんけんをしよう」において、学校の施設や人々について見たり聞いたりしたいことを考え、繰り返し学校探検をする学習に取り組んできた。この学習の中で明らかになった子どもたちの実態及び本単元を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ① 学校の施設や人々の様子、学校探検をして学校に詳しなれた自分自身へと気付きの質を高めてきている。このような子どもたちが、泥遊びの面白さや泥の不思議さ、楽しく遊ぶことができた自分自身へと気付きの質を高められるように、泥に触れる、泥の遊び方の工夫をする、考えた泥の遊び方で友達と遊ぶといった段階的な体験活動の中で、泥と自分自身との関わりを表現する機会を繰り返し設定する。
- ② 自分と友達の学校の施設や人々について見たり聞いたりしたいことを比べて、学校探検で調べたいことのリストを作成することができるようになってきている。このような子どもたちが、自分と友達の泥の遊び方を比べたり関連付けたりして、泥の遊び方の工夫をすることができるように、泥の遊び方を友達と伝え合う活動を設定する。
- ③ 学校の施設や人々について知りたいという思いや願いの実現に向けて、調べることを決め、学校探検ができるようになってきている。このような子どもたちが、泥を利用して友達と楽しく遊びたいという思いや願いの実現に向けて、友達と楽しく遊ぶ泥の遊び方を創り出せるように、泥に手や足で十分触れたり、自分の泥の遊び方で友達と一緒に遊んだりする機会を繰り返し設定する。

### Ⅲ 目標及び評価規準

#### Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

#### Ⅴ 本時の学習

- 1 ねらい 泥の遊び方を友達と紹介し合いながら遊び、泥の遊び方の工夫をすることを通して、泥遊びの面白さや泥の不思議さへの気付きを生かした泥の遊び方で遊ぶことができる。
- 2 準備 「泥の遊び方を考える方法」を示した拡大シート ネーム磁石

3 展 開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくは、泥で山を3つ作ったからでこぼこになって楽しいよ。友達にぼくの山を紹介して一緒に遊びたいな。</li> <li>・友達の泥遊びのいいところをたくさん見付けければ、ぼくの泥遊びももっと楽しくなるかもしれないな。</li> </ul> <p>2 泥の遊び方を友達と紹介し合いながら遊び、泥の遊び方の工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊んでくれた友達が、山がいくつもあつてカッコいいと言ってきて嬉しいな。それに、山をもっと高くできたら、もっと楽しそうだって言ってもらえたよ。</li> <li>・友達の山がすごく高くできていて、ぼくの山よりも下にたくさんの泥を付けてぺたぺたしていたから、真似してみようかな。</li> <li>・泥団子遊びをしていた友達は、大きくできるように硬い泥を使おうとしているのか。ぼくも硬い泥を使ったら、崩れずに今よりもっと高い山ができるかな。</li> <li>・山を高くできるように、山の周りや頂上を硬い泥で固めたら、つんつんした高い山ができたよ。友達に湖と山をつなげようと言われたよ。湖と山がつながったら、上から丸い泥を転がしてみたいな。</li> <li>・山の周りや頂上に硬い泥を付けて固めたらつんつんした高い山が3つも作れたよ。それから友達と一緒に山に溝を掘って、湖をつなげてみたよ。山から硬くて丸い泥を転がしたら、大玉転がしみたいになって湖にどろっととけるのが楽しかったよ。</li> </ul> <p>3 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の真似をしたり、友達と相談したりしたから、すごく楽しくなったな。次はもっとたくさんの泥遊びを考えてみたいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の泥の遊び方で友達と遊びたいという思いや願いを高められるように、自分が考えた泥の遊び方の楽しさを問いかける。</li> <li>○友達と泥遊びをして、泥の遊び方を考えるという本時の見通しをもてるように、「泥の遊び方を考える方法」を示した拡大シートを提示し、楽しい泥の遊び方にする方法を問いかける。</li> <li>○泥遊びの面白さや泥の不思議さへの気づきを得られるように、思いや願いの実現状況が分かる「楽しかった」「もっと楽しくなる」を伝え合いの視点として掲示し、遊び方が似ている友達と泥の遊び方を伝え合うよう促す。</li> <li>○自分や友達の泥の遊び方のよいところを見付けられるように、友達の泥の遊び方の真似したいところや楽しい理由を問いかける。</li> <li>○泥の遊び方の工夫をする意欲を高められるように、泥遊びの面白さや泥の不思議さへの気づきを生かして泥の遊び方を考えた子どもの、変化させたところを具体的に紹介する。</li> <li>○泥遊びの面白さや泥の不思議さへの気づきを生かして泥の遊び方を考えられるように、泥の遊び方を友達と相談し、試すよう促す。</li> <li>○泥遊びの面白さや泥の不思議さへの気づきを生かしている自分自身に気付けるように、遊び方を変化させたところとその理由を問いかける。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">— 評価項目 —</p> <p style="text-align: center;">泥遊びの面白さや泥の不思議さへの気づきを生かして泥の遊び方を変化させたり、変化させたところについて発言したりしている。</p> <p style="text-align: right;">&lt;行動・発言②&gt;</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○次時で泥の遊び方をさらに工夫をすることができるように、「泥の遊び方を考える方法」を示した拡大シートを提示し、自分の役に立った項目のところにネーム磁石を置くよう促す。</li> </ul>

指導と評価の計画（全6時間）

目標	泥を利用して遊ぶことを通して、泥の遊び方の工夫をして、泥遊びの面白さや泥の不思議さ、自分自身の成長に気付き、友達と楽しく遊ぶことができる。			
評価規準	<p>(①知識・技能の基礎)自分で遊びを創り出す面白さや友達と関わる楽しさ、手や足で触れた際の感触や音、見た目、形が変わるといった泥の不思議さ、遊び方を考えて友達と楽しく遊ぶことができた自分自身や友達存在に気付いている。</p> <p>(②思考力・判断力・表現等の基礎)自分と友達の泥の遊び方を比べたり関連付けたりして、泥の遊び方の工夫をして遊んでいる。</p> <p>(③主体的に学習に取り組む態度)泥を利用して友達と楽しく遊びたいという思いや願いの実現に向けて、泥の遊び方を創り出して、友達と楽しく遊ぼうとしている。</p>			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>
であ う	1	○田んぼを見たり泥を触ったりした感想を伝え合い、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて _____ 泥の遊び方の工夫をして、みんなと楽しく遊ぼう	○泥を利用して友達と楽しく遊びたいという思いや願いをもてるように、諸感覚を働かせて田んぼの泥を触って遊ぶ時間を十分確保する。	◇泥で遊んだ楽しさや友達ともっと遊びたい気持ちを伝えたり、友達と泥を触って笑顔で遊んだりしている。 <発言・行動③>
	1	○泥に触れながら、泥の遊び方を試す。	○泥の遊び方を見いだすことができるように、バケツやじょうろ、スコップを置いた道具コーナーと、前時の感想をまとめた模造紙を用意する。	◇自分の考えた泥の遊び方を伝えたり、その遊び方で遊んだりしている。 <発言・行動②>
はたら きか ける	1	<b>○泥の遊び方を考えて遊ぶ。(本時)</b>	○自分と友達の泥の遊び方を比べて、泥遊びの面白さや泥の不思議さへの気付きを得られるように、泥の遊び方を友達と伝え合う活動を設定する。	◇泥遊びの面白さや泥の不思議さへの気付きを生かして泥の遊び方を変化させたり、変化させたところについて発言したりしている。 <行動・発言②>
	1	○考えた泥の遊び方で友達と遊ぶ「どろんこらんど」に向けて準備をする。	○自分の考えた泥の遊び方を友達に紹介できるように、泥の遊び方を友達と相談する場と試す場を設ける。	◇自分の考えた泥の遊び方を伝えたり、泥の遊び方を変化させながら笑顔で試したりしている。 <発言・行動②>
	1	○「どろんこらんど」をする。	○泥遊びの面白さや泥の不思議さへの気付きの自覚ができるように、「友達の遊びの楽しかったところ」「楽しかった理由」を視点として提示する。	◇泥遊びの面白さや友達と遊ぶ楽しさ、自分や友達の泥の遊び方のよさを伝えたり、記述したりしている。 <発言・学習プリント①>
ま ・と い め か る す	1	○泥遊びで友達と楽しく遊べた理由について表現し、生活の中におけるこれからの自分の遊びについて話し合う。	○泥の遊び方を考えて友達と楽しく遊べた自分自身や友達存在への気付きを得られるように、「楽しい泥の遊び方にするためにがんばったこと」を視点として提示する。	◇泥の遊び方を考えて友達と楽しく遊べたのは、自分が頑張ってきたことや友達と遊んだり協力したりしてきたからであることを絵や文で表している。 <学習プリント①>